

談話の冒頭に生起する左方転位構文

——主語名詞句が転位化されている場合——

海 寶 康 臣

1. はじめに

文の中には通常の語順の文の文内要素を文頭あるいは文末に移動して、移動した要素があった位置に代名詞を残したような形式をしている構文がある。そうした構文は *dislocation* や *detachment construction* と呼ばれる。Lambrecht (1994: 182) によると、この構文は通言語的に広くみられる。

- (1) Detachment constructions are common in the world's language, even in languages whose typological properties would seem to make NP detachment difficult.

(Lambrecht 1994: 182)

転位構文の下位類には、(2) (3) のように、左方転位化されている要素（以下、転位要素と呼ぶ）と同一指示の要素が主文の主語として生起している左方転位構文がある。

- (2) 火星_i、それ_iは古来より人類がもっとも注目していた惑星だろう。¹⁾

(http://www.astroarts.co.jp/news/2000/05/19mission_to_mars/index-j.shtml)

- (3) President Obama_i, he_i had his chance.

(<http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/1210/12/sn.01.html>)

英語の左方転位構文に関する先行研究に目を向けると、談話の冒頭に生起している例に関する考察は殆どない。Hankamer (1974) は、左方転位構文は談話の冒頭には生起しないという見解を示している。Rodman (1974)、Givón (1976)、Reinhart (1982)、Carlson (1983) で示されている左方転位構文の機能は概ね「新たな話題の導入」であるが、談話の冒頭で左方転位構文が話題を談話内に導入している例はみられない。また、Prince (1997) は、新情報の生起が好まれない位置（例えば主語の位置）に新情報を表す要素が生起しないようにするために左方転位構文が用いられることがあるという見解を示しているが、談話の冒頭に生起する左方転位構文は挙げていない。²⁾

談話の冒頭に生起する英語の左方転位構文に考察対象を絞っている先行研究は、管見では山内 (2017) のみである。そこで考察対象になっている左方転位構文は、新聞や雑誌の記事に生起し、転位要素として複数の語句が提示されている特別なタイプである。そのタイプの左方転位構文の機能的特徴と効果は、そのタイプ特有のものとされている。³⁾

日本語の左方転位構文に関しては、英語とは異なり、転位要素が単一の名詞句であり、談話の冒頭に生起している例が珍しくなく、生起するジャンルも新聞や雑誌に限られるわけではない。ブログ、論文、テレビ番組、テレビやラジオのコマーシャル等、話し言葉、書き言葉を問わず幅広い

ジャンルにみられる。その一方で、談話冒頭に生起する左方転位構文に焦点を当て、それについて詳しく論じている考察は管見ではみあたらない。⁴⁾

本稿の目的は、主語名詞句が転位化されている日本語の左方転位構文が談話の冒頭に生起する場合の特徴を明らかにすることである。次の2節では談話の冒頭に生起する左方転位構文の機能を Levinson (2000) が一般化された会話の推意 (generalized conversational implicature) の下位分類とする M 推意 (M-implicature) と I 推意 (I-Implicature) に基づいて説明し、3節では、山内 (2017) が複数の名詞句が転位要素として生起している英語の左方転位構文が有するとするサスペンス効果が、——サスペンス効果を生じさせる要因は、山内 (2017) で示されている多重左方転位構文の使用から生じる効果とは異なるものの、——談話冒頭に生起する日本語の左方転位構文にも認められる場合があることを示す。4節はまとめである。

拙論 (2013) では、主語名詞句が転位化されている左方転位構文を、聞き手の談話理解を容易にする目的で使用される聞き手志向のタイプと、話し手の思考過程が語順に直接反映されている話し手志向のタイプがあることを指摘した。後者のタイプの例を (4) (5) に示す。

(4) A : 山田ってどんなやつだい？

B : 山田、彼はいいやつだよ。⁵⁾ (牧野 1980 : 140)

(5) A : 誰が一郎の母ですか。

B : 山田花子、彼女が一郎の母です。⁶⁾

(4) は話し手が転位要素に対する評言 (comment)、すなわち、語られるものについて語る部分を考える時間を引き延ばすために用いられていると考える。そのように考えるのは、直前の文脈で問題になっている対象について、評言を提示するまでの時間が若干ではあるが長くかかるからである。この例は、話し手が問題になっている対象について考える思考過程を反映している。また (5) では、直前の質問に対して即座に浮かんだ回答が正しいか否かを判断する時間を確保するために左方転位構文が用いられていると考える。話し手が即座に浮かんだ回答をまず発話し、その回答が正しいか否かを考え、正しいと判断したので主文を発話したと考えられる。(4) (5) のような話し手志向の左方転位構文は、心内発話を除く独白では通常用いられないと思われる。本稿で扱う左方転位構文は独白なので基本的に聞き手志向の左方転位構文とみなされる。

2. 談話冒頭に生起する左方転位構文と M 推意

2.1. M 推意

Levinson (2000) では、通常用いられるシンプルな形式の言語表現と、通常の言語表現と比べ使用頻度が格段に低い冗長な形式の表現がある場合、前者の無標の言語表現が用いられると通常のステレオタイプの状況を表しているという I 推意が生じ、後者の有標の言語表現が用いられると通常のステレオタイプの状況とは対照的な状況を表しているという M 推意が生じるという旨の見解が示されている。I 推意は (6) の I 原理に基づいて説明され、M 推意は (7) の M 原理に基づいて説明される。

(6) *I-Principle*

Speaker's maxim: the maxim of Minimalization. "Say as little as necessary"; that is, produce the minimal linguistic information sufficient to achieve your communicational ends (bearing Q in mind).⁷⁾

Recipient corollary: the Enrichment Rule. Amplify the informational content of the speaker's utterance, by finding the most *specific* interpretation, up to what you judge to be the speaker's m-intended point, unless the speaker has broken the maxim of Minimalization by using a marked or prolix expression. (Levinson 2000 : 114)

(7) *The M-Principle*

Speaker's maxim: Indicate an abnormal, nonstereotypical situation by using marked expressions that contrast with those you would use to describe the corresponding normal, stereotypical situation.

Recipient's corollary: What is said in abnormal way indicates an abnormal situation, or marked messages indicate marked situations, (Levinson 2000 : 136)

(8) a. Larry stopped the car.

I++> Larry caused the car to stop in the normal way, by using the foot pedal.

b. Larry got the car to stop.

M++> Larry caused the car to stop in a nonstereotypical way, e.g., using the emergency brake. (Levinson 2000 : 141)

例えば、車を止める状況では、通常のステレオタイプの状況を示すには (8a) が用いられる。他方、ステレオタイプではない特別な状況を表す場合は (8b) の迂言的表現が用いられる。(8a) からは「ラリーは車を通常の方法で、例えばフットペダルを使って止めた」という I 推意が生じ、(8b) からは「ラリーは車を通常とは違う止め方で、例えば、サイドブレーキを使って止めた」という M 推意が生じる。

(8ab) の対照が示すように、冗長な形式の表現が用いられた場合、聞き手は何らかの「特別感」を感じる。この「特別感」は M 原理に帰するものと考えられる。

無標の形式といえる「おねがいします」という表現と対になる冗長な形式の有標の表現からも聞き手に「特別感」が伝わる。Hinds (1986 : 30) によると、(9a-c) は、「おねがいします」の代わりに用いられた場合、それぞれ (10a-c) の感じを与える。⁸⁾

(9) a. このフィルムを現像して下さい。

b. この荷物をあずかって下さい。

c. このお金を私の口座に入れてください。

(10) a. 何か特別な仕上げを請求するか、特殊なフィルムであるといった何か注意を要する感じ [。]

b. 何か特殊な荷物であるか、荷物を預けるところではないところで預けようとしている感じ [。]

- c. 普通のお金ではないか、知人にたのんでいるといった感じ [。]

通常用いられる無標の表現である「おねがいします」の代わりに、(9a-c) のような冗長な形式の有標の表現を用いると、聞き手に (10a-c) のような「特別感」が伝わるのは、M 原理により (9a-c) からそれぞれ、「一般的なフィルムではないこのフィルム」、「一般的な荷物とは異なるこの荷物」、「普通のお金ではないこのお金」という、ステレオタイプのな解釈を否定する解釈が行われるためと考えられる。

2.2. 談話冒頭の左方転位構文により生ずる M 推意

小西 (1981: 301-302) は、(11a) の左方転位構文を例示しながら (11b) のように述べ、左方転位構文が冗長な表現であり、強調を目的とした表現であることを指摘している。

- (11) a. That Charles Dickens, he is a great novelist.
 b. この語法は言語学的には『破格構文』と呼ばれるものであるが、主語を強調するために、代名詞で繰り返した余剰語法と考えるほうが妥当であろう。

拙論 (2013) では談話冒頭と談話の結びの間に生起する日英語の左方転位構文について考察し、転位要素もしくは左方転位構文が表す話題に談話の流れが変わるという M 推意が生じるという見解を提示した。つまり、談話冒頭と談話の結びの間に左方転位構文が生起する場合、無標の形式から生じるステレオタイプのな解釈である「談話の流れは継続する」という解釈を否定する解釈、すなわち、先行する談話の流れは継続しないという解釈が生じるという見解を提示した。

談話の冒頭は先行文脈がないので、その箇所に生起する左方転位構文からは、拙論で主張した M 推意は生じない。談話の冒頭に生起する左方転位構文から M 推意は生じないのか。この疑問に対する本稿の回答は、「生じる」である。(12) の下線部の左方転位構文は新作映画を紹介する談話の冒頭に生起している。

- (12) 火星、それは古来より人類がもっとも注目していた惑星だろう。

ローウェルの運河や火星隕石中の化石など科学的な論争から、火星人や人面岩などトンデモ系の話までネタが尽きない。

そんな火星を舞台にして、全米 No 1 ヒットを飾った映画『ミッション・トゥ・マーズ』が、5月27日より全国東宝洋画系にてロードショー公開される。監督は『ミッション・インポッシブル』のブライアン・デ・パルマだ。

西暦 2020 年、アメリカは人類史上初めて火星に 4 人の宇宙飛行士を送り込むことに成功。クルーは精力的に探査活動を続け、驚くべく発見が次つぎと報告される。

(後略) (http://www.astroarts.co.jp/news/2000/05/19mission_to_mars/index-j.shtml)

(12) の左方転位構文に対応する無標の形式である、「火星は古来より人類がもっとも注目していた惑星だろう」からは I 推意が生じる。それは、「火星と他の惑星は同列の比較対象になりうる」と

いうものである。「火星は」の「は」は対照を表しているが、対照は通常同列の存在物間で行われる。それに対して、(12)の左方転位構文からは、「火星は太陽系にある他の惑星とは別格である」という M 推意が生じる。

なお(12)の左方転位構文の使用動機は、読み手が映画の紹介を受け入れやすくなるようにすることと考えられる。談話冒頭で書き手が転位要素の「火星」に対して特別感を抱いていることが読み手に伝わる。直後の文で書き手がそれに対して特別感を抱くことが妥当である根拠を示す。この談話の展開の仕方は、読み手に火星は特別であるという認識を抱かせる効果をもたらす。読み手にその認識を抱かせた直後に映画の紹介が始まるので、読み手は火星が舞台の映画の紹介を受け入れやすくなる。

(13)は『黄金の80年代アニメ』という書籍の紹介文である。

(13) 80年代、それは日本が世界に誇るアニメーションの絶頂時代。10年間で何と930本もの作品が作られた。ナウシカもボトムズもマクロスもトトロも、日本を代表するアニメはすべて“80年代アニメ”なのだ。本書はそんな“黄金”の80年代アニメを一挙に紹介するアニメの『聖典』である。キミはどの作品に熱くなるか。

(『黄金の80年代アニメ』「BOOK」データベース)

(13)の左方転位構文に対応する無標の形式の「80年代は日本が世界に誇るアニメーションの絶頂時代」から生じる I 推意は、「アニメーションに関して80年代と他の年代は、同列に比較できる」というものである。他方、(13)の左方転位構文からは、「アニメーションに関して80年代は、他の年代とは同列に比較できない特別な年代である」という M 推意が生じる。

(13)の左方転位構文の使用動機は、(12)同様に、書き手が読み手に受け入れて欲しいと考える事柄を受け入れやすくすることと考えられる。(13)の談話冒頭で80年代はアニメに関して特別な年代であることを書き手が読み手に伝えようとしていることを読み手は理解する。80年代が他の年代とは同列に比較できないほど特別であるという見解に対して、読み手はその見解の根拠は何か、という疑問を抱くはずである。この疑問を抱かせることには、読み手の注意を後続談話に向けさせる効果がある。後続する第二文、第三文で80年代が特別である根拠が提示されているので、その疑問は解消される。80年代の特別感に対する疑問をまず抱かせ、第二文、第三文で特別感を裏付けることにより、アニメに関して80年代が特別であるという見解を読者が支持しやすくなる。この談話の展開の仕方が、80年代アニメの紹介本に読み手が関心を持つことを促している。

(12)(13)では左方転位構文に対応する無標の文の主語の「名詞+『は』」という形式の箇所が対照と解釈される場合をみた。(12)(13)の左方転位構文に対応する無標の文からは、「名詞+『は』」という形式の構成要素である名詞の指示対象が、それが属する何らかの範疇内の他の要素と同列という I 推意が生じ、左方転位構文からは、転位要素の指示対象が、それが属する何らかの範疇内で別格の存在であるという M 推意が生じる、という見解を提示した。

左方転位構文に対応する無標の文の主語の「名詞+『は』」という形式の箇所が対照と解釈されない場合、つまりその箇所「主題」と解釈される場合も M 推意が生じると考えたい。その場合、転位要素が一貫して後続談話の話題である、という M 推意が生じると考える。(14)(15)は何れ

もテレビ番組冒頭のアナウンスである。

- (14) 音楽、それはいつも人々の心を楽しませるものである。しかしまたそれにより、心かき乱される者もいる。

[このアナウンスに続いて3人の演奏と歌の場面。その直後、通りがかりの人が「うるせー！」と言って、3人に空き缶を投げつける。]

(TAROMAN 岡本太郎式特撮活劇 2022年7月27日NHK Eテレ)

- (15) 隠密同心—それは旗本寄合席内藤勘解由に命を預け、人知れず人生の裏道を歩かねばならぬ宿命を、自らに求めた者達である。

極悪非道の悪に虐げられ、過酷な法の冷たさに泣く大江戸八百八町の人々を、ある時は助け、励まし、またある時は影のように支える彼ら。

だが、身をやつし姿を変えて敢然と悪に挑む隠密同心に、明日という日はない。

(<http://www.cans.zaq.ne.jp/wormhole/op15.html>)

(14) の左方転位構文に対応する無標の形式（「音楽はいつも人々の心を楽しませるものである」）からは、「『音楽』が後続談話の話題であり続けるか否かは不明である」というI推意が生じる。通常、話題は後続談話においても継承されるという期待を聞き手は抱くが、談話冒頭に生起している発話や文の場合は事情が異なる。談話冒頭に生起している発話や文は、本論に入る前の前置きである可能性があるため、通常その発話を耳にした時点で談話に導入された話題が後続談話の話題であり続けるかどうかを判断するのは難しい。他方、(14) の左方転位構文からは、「『音楽』は一貫して後続談話の話題であり続ける」というM推意が生じる。「音楽、それは」という箇所から、聞き手は話し手が「音楽」を特別視している印象を受ける。話し手が特別視している事物が談話冒頭で導入された場合、話し手が後続談話においてもそれについて語ることを継続すると聞き手は考えると思われる。(15) の左方転位構文に対応する無標の形式（「隠密同心は旗本寄合席内藤勘解由に命を預け、人知れず人生の裏道を歩かねばならぬ宿命を、自らに求めた者達である」）からは、「『隠密同心』が後続談話の話題であり続けるか否かは不明である」というI推意が生じる。そして、(15) の左方転位構文からは、「『隠密同心』は後続談話の話題として継続する」というM推意が生じる。これらの左方転位構文からは、転位要素が談話内で特別な地位にあることが読み手に伝わり得るといえる。(14) (15) の下線部の左方転位構文の使用動機は、談話冒頭で導入された話題に関して十分な量の情報を得るには後続談話に耳を傾ける必要があることを聞き手に示唆することで、後続談話においても引き続き、談話冒頭で導入された話題に関する情報取得のための注意力を維持するよう、聞き手に促すことにあると考えられる。

対応する無標の文の主語の「名詞+『は』」という形式の箇所が主題と解釈される左方転位構文が談話冒頭に生起している場合、転位要素が話題として継続し続ける場合が多いことが予想されるが、常にそうとは限らない。

- (16) 難民、それは、紛争や迫害で、ふるさとを追われた人々。彼らを守り、支えるために。

(UNHCR。) 避難場所の確保をはじめ、援助物資の支給など、すべての難民が、ふるさ

とへ帰る、その日まで、私たちは、活動を続けます。(UNHCR。)それは、難民のための、希望の5文字。(UNHCR。)国連 UNHCR 協会です。AC ジャパンは、この活動を支援しています。

(<https://www.youtube.com/watch?v=5qx63Tss08g>)⁹⁾

(16) はラジオコマーシャルであるが、その冒頭の左方転位構文からは、転位要素の「難民」が後続談話の話題として継続するという M 推意が生じる。ところが、「彼らを守り、支えるために」というナレーションの直後に談話内に導入された UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) に話題が移り、最後まで継続している。なお本例の「(UNHCR。)」の箇所は複数の人の掛け声である。本例では、難民という話題が継続するという M 推意が取り消されたと考えられる。

3. 談話冒頭に生起する左方転位構文とサスペンス効果

3.1. 多重左方転位構文のサスペンス効果

山内 (2017) は転位要素が複数個列挙されている (17) のような左方転位構文を多重左方転位構文と呼び、このタイプの左方転位構文について、「文頭に複数個の語句を列挙することにより、読み手に何らかの範疇名を考えさせた上で、後続節に [おいて] 書き手が意図した範疇名が明かされるという機能的特徴がある」と主張している。

(17) Twitching, trembling, panic, disorientation, hallucinations, terror, depression, mania and psychotic breakdown – these are some of the reported effects of meditation. Surprised? We were too. (山内 2017)

また、この機能的特徴に伴うサスペンスの発生と解消により、読み手の関心が後続する箇所の内容に引きつけられるという修辭的効果が発生するとしている。

山内 (2017) はさらに、注において、「[(18)] のような事例を左方転位構文として扱うならば、[転位要素が一つの左方転位構文] も記事冒頭で使用可能ということになる」と述べ、(19) の見解を示している。

(18) Just 6 hours old. That's the age of one participant in a recent study looking at ways to take the fingerprints of infants. (山内 2017)

(19) [(18)] では、「わずか生後6時間」という名詞句により記事本文が開始され、直後に、それが「乳幼児の指紋を採取する方法を探るための調査における被験者の年齢」であることが明かされている。一個の名詞句が脈絡もなく提示されれば、読み手はそれが何を伝えたいものなのかを思考することになり、その解釈が保留されたまま、後続節を読み進めることになる。(後略) (山内 2017)

上述の通り Hankamer (1974) において左方転位構文は談話の冒頭には生起しないという見解が示

されているが、そこでは単一の名詞句が転位化されている英語の例が示されているので、その見解は単一の名詞句が転位化されている英語の左方転位構文に関する見解と考えられる。実際のところ、そうした英語の左方転位構文が談話冒頭で使用されることはまったくないわけではないが、生起頻度はかなり低いと思われる¹⁰⁾。これに対して、日本語の場合、単一の名詞句が転位化されており、談話冒頭に生起している左方転位構文は書き言葉、話し言葉を問わず、様々な種類の談話に稀ではない頻度で生起する。日本語の左方転位構文が談話冒頭に生起する場合、サスペンスの発生と解消が認められる場合がある。転位要素が読み手（聞き手）に抱かせる疑問が後続部分で解消されるという点では、(19)の山内(2017)の見解と本稿の見解に相違はないが、読み手（聞き手）が抱く疑問の中身と疑問の解消のされ方が異なる。次の§3.2.では、日本語の左方転移構文の場合、転位要素がどのような疑問を読み手（聞き手）に抱かせるのかということと、疑問がどのように解消されるのかを示したい。

3.2. 転位要素が一つの左方転位構文のサスペンス効果

談話冒頭に生起する左方転位構文の転位要素が変項を含んでいると解釈される場合、M推意が生じることに加え、サスペンスの発生と解消が認められる。変項名詞句および変項名詞句を含む倒置指定文について西山(2013, 2003)は次のように説明している。

- (20) 変項名詞句は、「名詞句でありながら、変項を含み、変項の値を充足することによって指定文の意味構造を形成する名詞句である。」 (西山 2013)
- (21) 一般に、変項名詞句は、「誰」「どれ」「どいつ」「どこ」といった項の位置にある値を問う疑問詞を内に含んでいる名詞句であるともいえる。 (西山 2003 : 133)
- (22) 倒置指定文は、項の位置にある値を問う *Wh*-疑問文とそれにたいする答えを単一文のなかで実現している構文である、といえる。このことを別のことばで言い替えれば、倒置指定文「AはBだ」の発話の背後には「Aであるようなものをさがす」という関心があり、文全体は、それをさがし当てて「ああ、分かった、Bだ」と答えることによって、その関心を満たしているわけである。 (西山 2003 : 76)】

倒置指定文においては、主語の転位化が生じている場合でも、*Wh*-疑問文とそれに対する答えを単一文のなかで実現している構文であることに変わりはない。なお山泉(2013)は変更名詞句を左方転位できることを指摘している。

(23) (24) の下線部の左方転位構文はどちらも談話の冒頭に生起している。(23) (24) はそれぞれ、「今行きたい場所はズバリ『サンリオショップ』である」、「我が家で一番働き者の家電製品は、除湿機です」という倒置指定文の主語が転位化されている例である。

- (23) 今行きたい場所、それはズバリ「サンリオショップ」である。

サンリオと言えばキティちゃんて有名ですが、個人的にはジュエルペットかな？

サンリオの三強と言えばキティちゃん、マイメロディ、そしてジュエルペットですよ。

(本当か ?!)

(後略) (http://www.accessup.org/pj/6_A5ABA5B7A5AAA5DAA5A2/20110903.html)

(24) さて、我が家で一番働きの家電製品、それは、除湿機です。(笑)

我が家では除湿機を脱衣室に置き、
洗濯物干しと、脱衣室に隣接したお風呂の湿気取りに使っているので、
1日たりとも除湿機が動かない日はありません。

(後略) (<http://terrysuma.sblo.jp/archives/20120621-1.html>)

(23) の場合、転位要素の「今行きたい場所」は「x が今行きたい場所である」という命題関数であり、「今行きたい場所はどこか」と解釈される。読み手にはこの疑問に関してサスペンス状態が生じ、後続部分でそれが解消される。(24) の場合も、転位要素の「我が家で一番働きの家電製品」は、「x が我が家で一番働きの家電製品である」という命題関数であり「我が家で一番働きの家電製品は何か」と解釈される。この疑問に関してサスペンス状態が生じ、後続部分で変項を満たす値が「除湿機」として生起し、サスペンスが解消される。なお (23) (24) の下線部の左方転位構文からは、それぞれの変項を満たす値が後続談話の話題として継続するという M 推意が生じる。

ところで西山 (2003 : 177) は、変項名詞句を受けるのに「が」を用いることができるという見解に否定的である。(25) の主語の「『特におすすめなの』」が変項名詞句が一般に有する意味特性を有していない」ことを理由として挙げている。

(25) 特におすすめなのがこのメニューです。 (西山 2003 : 177)

(26) ?特におすすめなもの、それがこのメニューです。 (西山 2003 : 178)

(27) * 特におすすめなのがいっただれだ。 (西山 2003 : 178)

(28) ?特におすすめなのがこのメニューではありません。 (西山 2003 : 178)

西山 (2003 : 177-178) は、変項名詞句が一般に有する意味特性として、「人称代名詞でなく『それ』で受けることができる」、「値を選び出すことを要求する疑問文を構築できる」、変項 x の値を否定できることを挙げ、(26)-(28) の容認度が低いことを、変項名詞句を受けるのに「が」を用いることができるという見解に否定的である根拠として挙げている。

談話の冒頭に生起している (29) の下線部の左方転位構文の転位要素である「地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学」は、「それ」で受けている。

(29) 地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学、それが化学である。化学の研究は近代科学としては約 200 年を有する。(後略)

(「日本化学会化学教育協議会協議会だより」『化学と教育』47 巻 3 号 (1991 年))

また、(29) の下線部の左方転位構文に対応する無標の形式の「地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学が化学である」は、(30) に示す通り、値を選び出すことを要求する疑問文を構築でき、(31) に示す通り、変項の値を否定できる。

- (30) 地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学が何か。それが何か分かるだろうか。
- (31) 地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学が化学ではない。Aさんはそう言っていた。Aさんに尋ねたい。そのような科学が化学ではないとする理由を。

したがって、(29) の転位要素は変項命題とみなすことができると思われる。転位要素は、「xが地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学である」という命題関数であり、「地球上や宇宙に存在する広大な物質群、および、それらが織りなす壮大な物質世界を、分子レベル、分子集合レベルで探索・理解する科学(の名称)は何か」を意味すると解釈される。この例では、この疑問に関してサスペンス状態が生じ、後続部分でそれが解消されている。

なお(29)のように変項名詞句を受けるのに「が」が用いられている例は稀ではない。(32)は(29)の類例である。

- (32) ほとんど意識することはないが、いつも身の回りにある文房具、それが輪ゴムだ。いや、文房具というよりは、生活用品と言うほうが適しているだろう。それほどに、輪ゴムは常にそばにある。(後略) (<http://onedaywalk.sakura.ne.jp/someday/column/column4.html>)

転位要素は、「xが輪ゴムである」というという命題関数で、「ほとんど意識することはないが、いつも身の回りにある文房具は何か」を意味すると解釈される。そして、その疑問に関してサスペンス状態が生じ、後続部分でそれが解消されている。

4. おわりに

本稿では、日本語の左方転位構文が談話の冒頭に生起する場合、転位要素の指示対象は、それが属する範疇内で別格であり、その範疇内の他の存在物とは比較できないというM推意、あるいは、転位要素の指示対象が後続談話の話題であり続けるというM推意が生じるという見解を示した。また、談話冒頭の左方転位構文の使用動機として、後続談話の内容を聞き手(読み手)が受け入れやすくすることと、後続談話においても引き続き、談話冒頭で導入された話題に関する情報取得のための注意力を維持するよう、聞き手に促すことを挙げた。さらに、談話冒頭に生起する日本語の左方転位構文の転位要素が変項を含んでいると解釈される場合、サスペンスの発生と解消が認められると主張した。

注

- 1) 用例中のインデックスは筆者によるものである。
- 2) Prince (1997) は、左方転位構文は (i) の機能を果たすことがあると主張している。
 - (i) Discourse Processing Function of Left-Dislocation: Simplifying LDs
 A 'Simplifying' Left-Dislocation serves to simplify the discourse processing of Discourse-new entities by removing them from a syntactic position disfavored for Discourse-new entities and creating a separate processing unit for them. Once that unit is processed and they have become Discourse-old, they may comfortably occur in their positions within the clause as pronouns. Prince (1997)
- 3) 山内 (2017) はこのタイプの左方転位構文を多重左方転位構文と呼んでいる。山内が示す多重左方転位構文の機能的特徴と効果は3節で示す。
- 4) 談話冒頭の用例とは明記されていないが、居關他 (2019) では談話冒頭に生起していると思われる例が挙げられている。そこでは左方転位構文が先行文脈のない談話冒頭に生起しているか、それとも先行文脈のある位置に生起しているかは問題にされていない。
- 5) 用例中の下線は筆者によるものである。なお (4) の原典では下線は「山田」と「彼」のみに施されている。
- 6) 本例は、Yamaizumi (2011) で示されている例を基に、若干の変更を施したものである。
- 7) Q は Levinson (2000) で提示されている Q 原理 (Q-principle) を指す。
 - (i) Q-principle: Do not provide a statement that is informationally weaker than your knowledge of the world allows, unless providing an informationally stronger statement would contravene the I-principle...
 Recipient corollary: Take it that the speaker made the strongest statement consistent with what he knows... (Levinson 2000 : 76)
- 8) (9a) (9b) はそれぞれ、フィルムの現像を請け負う店、荷物を預けることのできる場所で、(9c) は銀行の受け付けで発話されることが想定されている。
- 9) 本コマーシャルは動画再生 20 秒後から始まる。
- 10) 次の (i) は談話冒頭に生起している英語の左方転位構文とみなすことができる。(i) は動画が表示される箇所の下に示されている動画に関する説明である。
 - (i) Considering race in college admissions. That's our first subject today on CNN 10. As the U.S. Supreme Court hears arguments for and against the practice, we'll examine the different perspectives around the issue. Will universities be able to consider race as a factor in the admissions process moving forward?
 (CNN 10 November 1, 2022, <https://edition.cnn.com/cnn10>)

参考文献

- Carlson, L. H. 1983. *Dialogue Games: An Approach to Discourse Analysis*. Doctoral Dissertation, MIT.
- Givón, T. 1976. "Topic, pronoun and grammatical agreement." In Li, C.N. (ed.) *Subject and Topic*, 149-188. New York: Academic Press.
- Hankamer, J. 1974. "On the Non-Cyclic Nature of Wh-Clefting." *CLS* 10, 221-233.
- Hinds, J. 1986. *Situation vs. Person Focus*. 東京：くろしお出版.
- 居關友里子・大江元貴・鈴木彩香. 2019. 「日本語左方転位構文の再検討—コミュニケーション上の働きに注目して—」社会言語科学会第43回大会 (2019年3月16日) (https://conference.wdc-jp.com/jass/43/contents/common/doc/1_1.pdf).
- 海寶康臣. 2013. 「主語名詞句が転位化されている日英語の左方転位構文と右方転位構文の談話内での機能」『日本語用論学会大会発表論文集』8、41-48.
- 小西友七. 1981. 『アメリカ英語の語法』東京：研究社.
- Lambrecht, K. 1994. *Information Structure and Sentence Form: Topic, Focus and the Mental Representation of Discourse Referents*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Levinson, S. 2000. *Presumptive Meanings: The Theory of Generalized Conversational Implicature*. Cambridge, MA: MIT Press (田中廣明・五十嵐海理訳『意味の推定』研究社、東京、2007)
- 牧野成一. 1980. 『くりかえしの文法』東京：大修館書店.
- 西山佑司. 2003. 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』東京：ひつじ書房.
- 西山佑司. 2013. 「変化文, 潜伏疑問文, 潜伏命題文」西山佑司 (編) 『名詞句の世界 その意味と解釈の神秘に迫る』369-406、東京：ひつじ書房.
- Prince, E. F. 1997. "On the Functions of Left-Dislocation in English Discourse." In A. Kamio (ed.) *Directions in*

- Functional Linguistics*, 117-143. Amsterdam: John Benjamins.
- Reinhart, T. 1982. *Pragmatics and Linguistics: An Analysis of Sentence Topics*. Bloomington: Indiana University Linguistics Club.
- Rodman, R. 1974. "On Left Dislocation." *Papers in Linguistics* 7, 437-466.
- Yamaizumi, M. 2011. "Left-Dislocation in Japanese and Information Structure Theory." 国立国語研究所論集 (NINJAL Research Papers) 1, 77-92.
- 山泉実. 2013. 「左方転位構文と名詞句の文中での意味的・情報構造的機能」西山佑司（編）『名詞句の世界 その意味と解釈の神秘に迫る』369-406、東京：ひつじ書房.
- 山内昇. 2017. 「記事談話冒頭における多重左方転位構文の修辭的効果について」『語用論研究』19、22-39.

(九州歯科大学講師)

Left Dislocation in Discourse-Initial Position:
Cases Where a Subject NP is Left-Dislocated

by

Yasuomi Kaiho

Hankamer(1974)expresses the view that left-dislocation in English is not used in the out-of-the-blue context. In point of fact, it is difficult to find an example of the construction in English that appears at the beginning of a discourse if not impossible. In contrast, examples of the construction in Japanese can be found without difficulty in discourse-initial situations. The purpose of this paper is to clarify characteristics of left-dislocation in Japanese where a subject NP is left-dislocated in a discourse-initial position. It is argued that the use of the construction in the position M-implicates that the referent of the left-dislocated NP is special in that it is regarded either as something in a class of its own or as a topic throughout the discourse in question. It is also asserted that the use of a sentence with canonical word order in the position either I-implicates that the referent of the subject is looked upon as comparable to the referent of an element in a set to which the referent of the subject belongs or I-implicates that it is not certain that the referent of the subject behaves as a topic throughout the discourse in question. Furthermore, it is pointed out that the left dislocation construction used discourse-initially keeps the addressees in suspense when the left-dislocated NP is viewed as a variable NP.